

阪神大震災23年

史上初めて近代都市が直下型地震に襲われた阪神大震災から17日で23年。あの年生まれた赤ちゃんたちはもう大人になり、次々に社会人の仲間入りをしている。

社会の中核の世代交代が進むということは、裏返せば震災を知る人が少なくなっていくということだ。被災地の外側だけでなく、内側でも風化が進んでいる。

震災20年に神戸を訪ねたとき、既に市民の4割が震災を経験していない世代となっていた。その割合はさらに大きくなった。県や市町村でも震

災後に採用された職員が5割近い。
震災を忘れず、貴重な経験と教訓を継承することの重要性がさらに増している。神戸

ただでなく、災害が多発する他の土地でも必ず役立つと思っただけでなく、兵庫が1月17日を「ひょうご安全の日」に定めたのは、震災から10年となる2005年

その強い決意を込めて、兵庫が1月17日を「ひょうご安全の日」に定めたのは、震災から10年となる2005年

毎年の追悼式典で朗読されることになる宣言の1回目は「私たちは多くの人たちに震災の教訓を知ってもらいたい」と願ってきた」とうたう。
阪神大震災以来、日本列島は活動期に入った。地震や津波だけでなく、豪雨災害や土砂崩れも相次ぐ。毎年の宣言は、その時々々の自然災害を映す鏡になった。
東日本大震災が発生した翌年の宣言は「私たちは自然災害が多発し激化する時代に生きている。もうこれ以上、悲しい思い出を作らないように

砂崩れも相次ぐ。毎年の宣言は、その時々々の自然災害を映す鏡になった。
東日本大震災が発生した翌年の宣言は「私たちは自然災害が多発し激化する時代に生きている。もうこれ以上、悲しい思い出を作らないように

人事と思えば、つきに被災する。この思いは、20年の節目に「伝える・備える・活かす」の目標として結実した。教訓は活動期に入った。地震や津波だけでなく、豪雨災害や土砂崩れも相次ぐ。毎年の宣言は、その時々々の自然災害を映す鏡になった。
東日本大震災が発生した翌年の宣言は「私たちは自然災害が多発し激化する時代に生きている。もうこれ以上、悲しい思い出を作らないように

1. 論説委員の主張が書かれている部分に線を引きながら、文章を読みましょう。

文中の赤線部分

2. 本文中の「風化」の意味を調べてみましょう。

記憶が薄れていくこと

3. 本文中に「被災地の外側だけでなく、内側でも風化が進んでいる」とあるが、それは、どのようなことか本文中の例を挙げながら説明しましょう。

神戸市民の4割が震災を経験していない世代となったり、県や市町村の職員でも震災後に採用された割合が5割になるなど、被災した地域の中でも実際に震災を経験したことがある人が少なくなっていくこと

4. 本文中の「この思いは、20年の節目に『伝える・備える・活かす』の目標として結実した」とあるが、「この思い」とはどのようなことを指すか、説明しましょう。

多くの人たちに震災の教訓を知ってもらいたい、これ以上多くの人が自然災害で悲しい思い出をつくらないようにしたい、という思い

5. この文章の見出しを付けてみましょう。文字数は10文字程度で考えてみよう。

ひたすらに伝え続ける(10文字) ※「伝える」というキーワードが入っていれば可

6. 阪神・淡路や東日本などの大震災の教訓や経験を伝えるためにどのようなことができると考えますか、あなたのアイデアを挙げてみましょう。

「学校の授業で行う」、「文章や映像で記録を残す」など

年 組 名前